

## 高齢者支援

### これまでの取り組み

住吉区では地域と連携して高齢者のつどいの場となる百歳体操やふれあい喫茶、食事サービスなど顔の見える関係づくりの取り組みをはじめ、住み慣れた地域で暮らし続けるため本人を中心とした関係機関の連携を進めてきました。また、支援が必要な方には見守り活動の実施やあんしんサポート事業（日常生活自立支援事業）、成年後見制度の活用などに取り組んできました。

### 各会議体で見えてきた課題

- ① 地域活動への参加が少なく顔の見える関係づくりが難しい
- ② 支援を望まない高齢者との関係づくりが難しい
- ③ 支援者の高齢化により見守り活動など担い手が不足している
- ④ 認知症高齢者の金銭管理をはじめとした各種制度を利用するには金銭的な負担や手続きの煩雑さなど利用しづらい

大阪市関係局と連携

## 障がい者支援

### これまでの取り組み

住吉区では自立支援協議会を設置し、障がい者基幹相談支援センターが主体的に参画し各部会において研修会や勉強会、グループワークなどを実施することで、それぞれの相談窓口で障がい者が地域で安心して暮らせるよう支援してきました。

また社会的入院や触法障がいの地域移行支援については、地域、施設の理解・協力を得ながら取り組んできました。

### 各会議体で見えてきた課題

- ① 相談窓口の認知度が低く支援につなげることが難しい
- ② 地域で安心して暮らしていける環境づくりにはネットワークが不足している
- ③ 地域移行支援にあたって本人の事前情報が少なく短期間での円滑な移行が難しい

大阪市関係局と連携

## こども支援

### これまでの取り組み

住吉区では保育所園・幼稚園、小中学校、高校等の所属と連携し、児童の個別の発達を支援するためのデイサービスや保護者の負担を軽減するための福祉サービスの利用等を勧めるとともに、虐待リスク等に応じた頻度で支援対象児童等の状況確認を行い、関係機関が連携を図り支援の方向性を共有しながら、継続的に支援対象児童等を見守ってきました。また、関係機関を掲載したハンドブックの作成や見守りを行う支援者への研修会などを開催してきました。

さらに不登校や引きこもりで悩んでいる子ども・若者の福祉や保健、教育、就労など様々な相談事業をはじめ、居場所づくり、外出支援の実施や事業の認知度を高めるためのフォーラムや研修会などを開催してきました。

### 各会議体で見えてきた課題

- ① 所属や関係機関からのかかわりを拒否する家庭や支援を自己中断する方などは継続支援が難しい
- ② 外国人世帯で習慣の違いなどから児童虐待（疑い）となることがあり、日本語でのコミュニケーションがうまくいかないケースなど支援が難しい
- ③ 就労支援や居場所づくりなどに必要な受け入れ施設が不足している

## 複合的な支援

### これまでの取り組み

住吉区では「総合的な支援調整の場（以下、「つながる場」という）」を開催し、様々な分野の相談支援機関や地域の関係者などが一堂に会し、世帯全体の支援方針を検討・共有するとともに、支援にあたっての役割分担を明確にするなどの取組みを進めてきました。また、見守り相談室のCSWとの連携により、自ら相談できず、地域で埋もれている要援護者を発見し、必要に応じ「つながる場」を活用し適切な支援に取り組んできました。

### 各会議体で見えてきた課題

- ① 地域活動への参加が少なく顔の見える関係づくりが難しい
- ② 支援を望まない世帯等や病識のない人との関係づくりが難しい
- ③ 相談窓口の認知度が低く支援につなげることが難しい
- ④ 認知症高齢者の金銭管理をはじめとした各種制度を利用するには金銭的な負担や手続きの煩雑さなど利用しづらい

大阪市関係局と連携